

様式13

会派視察研修計画書

平成30年12月21日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 鈴木 みのり 印

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	鈴木 みのり ・ 小池 友妃子		
日時	平成31年 1月31日（木）～平成31年 2月 1日（金）		
視察先	1月31日（木） 東京都文京区 2月 1日（金） 東京都千代田区		
研修内容	文京区（地方議会総合研究所）…地方自治法について 千代田区（麹町中学校）…学校改革について		
日程	1月31日（木）地方議会総合研究所…13:00～15:30 2月 1日（金）千代田区麹町中学校…14:00～16:00		
交通手段	<input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関 （電車・新幹線）	<input type="checkbox"/> 公共交通機関 （飛行機）	<input type="checkbox"/> 自家用車

※該当するものにチェック☑してください

様式14

会派視察研修報告書

平成31年 2月 6日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ
代表者名 鈴木 みのり 印

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 2 人分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	鈴木みのり、小池 友妃子
日時	平成31年1月31日（木）～平成31年2月1日（金）
視察先	1月31日（木） 東京都文京区 2月 1日（金） 東京都千代田区
研修内容	文京区（地方議会総合研究所）…地方自治法について 千代田区（麴町中学校）…学校改革について
日程	1月31日（木）地方議会総合研究所…13:00～15:30 2月 1日（金）千代田区麴町中学校…14:00～16:00
備考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

視察研修成果報告書

平成 31年 2月 4日

議員氏名 鈴木 みのり

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成 31年 1月 31日（木）～平成 31年 2月 1日（金）
- 2 視察先 地方議会総合研究所（文京区）・麴町中学校（千代田区）
- 3 視察の種類 会派視察（みらいクラブ・公明党合同）
- 4 視察の成果等

今回も公明党さんとの合同会派視察として、昨年議員研修会でお世話になりました「地方議会総合研究所」の廣瀬和彦先生とフリートーク形式で、現在の碧南市議会の問題点とこれからの目指す方向についての方法について、自由にディスカッションさせて頂きました。今までにないやり方での研修で実に有意義な物でした。一緒にランチもして頂き、これからの質問受付のお約束もして頂きました、これは今までだと議会事務局を通してしか方法が無く、時間も掛りましたがこれからは、スピード感を持って議論・政策作成等が出来るのではと期待しています。右の写真



は研修場所近くのソラシティでの1枚です。内容の中でも特に関心の高かったものは 1, 請願・陳情の対応について 2, 条例作成の先進地について 3, 議会基本条例の先進地情報 4, 予算審議方法について 等が次の視察先にも繋がり全員が次々に質問をされ、あっという間の研修で、おそらくこれからの議員活動に参考になる部分が多かったかと思われました。次に千代田区にある公立の「麴町中学校」と言うか、工藤校長先生の視察について報告します。当日は我々以外にも14名の合同視察であり、常にこういった感じの視察と言う事で、いかに関心が高い学校かと思いました。この名物校長先生は東京理科大出身という異例の経歴で、30代のころから校長になる為に山形県から東京の教育委員会の入所し、ピンポイントでこの学校の校長になり、自分の思う、理想の学校作りに全てを賭けているのがヒシヒシと伝わってきました。基本は「何のため・誰のためを考えた教育」を、8つの“コンピテンシー”を基本に改革を強引に断行されてきていました。公立とは思えない、数々の改革は1日2日の研修では理解できないかとも思いました。主なものは 1, 定期試験・宿題の廃止 2, 固定担任の



廃止 3, ヤングアメリカンの実施 4, AIによる数学指導 5, 民間（企業）の人を校内に取り入れる等々。この中から1つでも碧南市で実施出来れば大変な事になるであろうと感じたし、しなければいけないと強く決意しました。この続きは一般質問で！

会派視察研修報告書

平成30年2月6日

議員氏名 小池 友妃子 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成31年1月31日（木）～平成31年2月1日（金）
- 2 視察先 東京都文京区地方議会総合研究所・東京都千代田区立麴町中学校
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ）視察
- 4 視察の成果等

1) 地方議会研究所 「地方自治法について」

1. 条例策定の際に気をつけること
 - ・他の法律と重なっていないかを必ず調べること。
 - ・鹿児島大学司法政策教育研究センターでは、「全国条例データベースpowered by eLen」の配信をし、全国の自治体ほか行政機関など向けに本格運用している。（同志社大学も同様）
2. 単年度決算のメリット・デメリット
 - ・法律自体が単年度制。4/1から3/31までの期間を変えることはできない。
 - ・総務省が決めている決まり事。
3. 繰越明許費
国家の歳出予算の経費のうち、その性質上あるいは予算成立後に、なんらかの理由により年度内に支出を完了することのできない見込みのあるもの。あらかじめ国会の議決を経て、翌年度に繰り越して使用することができる。
4. 請願・陳情の不採択の理由例
 - ・趣旨採択…趣旨については十分理解できるが、当分の間は実現することが不可能である場合において、「趣旨には賛成である」という意味の意志決定のこと。
 - ・一部採択…内容が数項目にわたっているような場合において、その一部については認めにくいですが、全体を不採択にするのは適当でない場合、一部の項目または部分採択すること。
 - ・継続審査…審議事件の性質、内容、背景となっている事情の変更、政治的配慮などから、当該会期中に結論を出さずに継続して審査することが適当であると判断した場合、閉会中に審査すること。
5. 市民病院の一部適用と全部適用について
6. 市民病院経営統合について
※5.6は後日回答
7. 議会基本条例を有効に活用されている自治体例
可見市、会津若松市

8. 予算審議の理想型について

全員で審議している市町村議会もある。（予算常任委員会・決算常任委員会）

視察を通じて

具体的な事例を出しながら地方自治についてご教授いただいたのですが、あっという間の時間にすべてを確認することはできませんでした。しかし、今後廣瀬先生とのパイプができたことにより、困った時にわかりやすく教えていただけることになったことにつきましては、今後の政治活動をする上で非常に心強くなりました。

2) 千代田区立麹町中学校「学校改革について」

「麹町中学校」の開校は、1947（昭和22）年春。それ以来現在に至るまで、政治の中核である永田町に最も近い公立中学校であり続けており、付近に住まう政財界の重鎮やその子弟も、かつてはこの学校に多く通っていたとようです。今は「進学校」と言えばまず私立校を思い浮かべる時代になっているが、公立学校がエリート街道だったという時代もあり、麹町中もその一角を占め、千代田区に住み、「番町小→麹町中→日比谷高→東京大学」と辿るのが、かつてのエリートコースの代名詞だったようです。

学校の特徴とし、校内見学をさせていただいたのですが、公立校でありながら非常に設備が充実し、私立中学校のような感じがしました。2012（平成24）年に建て替えられた地下1階、地上6階建ての鉄筋造りの校舎。工事現場や首都高が隣にあっても、外からの物音はシャットアウトされており、静謐な学習環境が守られていました。また、都心立地ながらも十分な広さの校庭を持っている。プールは屋内設置の温水プールで、屋上には天然芝の広い庭園や農園もあり、立派な和室や、最新設備を備えた会議室、まるで大学のホールのような、広い階段教室もありました。

1. 目指す教育像

「どんな世界であれ、自分の意志をもって社会に出ていく人を育成する」

二つの柱

- 1 社会で必要とされる学び方の習得を支援する
- 2 個性・特性を伸ばす機会を支援する

これを実践するための8つの言葉

- ・様々な場面で言葉や技能を使いこなす
- ・信頼できる知識や情報を収集し、有効に活用する
- ・感情をコントロールする
- ・将来を見通して計画的に行動する
- ・ルールを踏まえて、建設的に主張する
- ・他者の立場で物事を考える
- ・目標を達成するために他者と協働する
- ・意見の対立や理解の相違を解決する

2. 固定担任制の廃止

固定担任制は、「1人の担任に生徒のすべてを委ねることになる制度」だということで廃止し、全員担任制を導入されています。これは教員全員がチームを組んで、生徒にとって最適な対応ができるようにするものです。面談の時期が来ると、生徒や保護者は「どの先生と話したいか」を選びます。自分の成長にとって誰が重要なのかを考えさせ、「人のせいにならず、自分の力で生きていける子ども」を育てることを目的として導入されています。これは医療の世界における『チーム医療』と同じ考え」とのこととのことです。

3. どのような教育をしているか

大きな特徴として、社会で求められる力を身につけるために、精神論ではなく確かなスキ

ル身につけさせることをしています。どういうことかということ、抽象的な能力をなるべくわかりやすく言語化することや、目に見える形で提示することで「社会で再現できるスキル」を生徒に学ばせることを基本とされています。

具体的な教育活動としては、

- ① 自律した学びを育てるために ～フレームワークを活用した学習～
- ② 協働の学び ～社会とのつながりを意識した学び～

等があげられます。

視察を通じて

学校内見学をさせて頂き、それぞれの担当の先生方ともお話をさせて頂き、さらにこれまでの具体的な取り組みを研修させていただきました。いくつかあるうちのその一つとして、目的と他者を意識してこそ学びが深まるとの考えでの修学旅行が紹介されました。麴町中学校では修学旅行を「ツアー企画取材旅行」として、民間旅行会社の協力を得て生徒たちがツアー企画を考案し、修学旅行は取材と位置付けて、帰ってきてからパンフレットを作成し旅行会社にプレゼンテーションを行っているとお話頂きました。それは、麴町中学校では、最優先にしてきたのは、生徒たちが「世の中ってまんざらでもない！結構大人って素敵だ！」と思える教育だということで、将来生徒たちが出ていく社会を意識した学校改革に力をいれているということでした。

学校に来たら世の中が嫌いになって、大人になりたくないと思われる学校では困ります。学校は社会人になるための準備期間なのではと思います。この麴町中学校の取り組みを碧南市でも、取り入れることができることは、是非取り入れ、生徒が社会に出る前に学校に行く理由をきちんと理解しながら学校生活を送れるよう取り組みを進めていかなくてはと感じました。

